

# 災害時の常備薬のスムーズな提供を目指して

宮城県仙台第三高等学校 探究35班

## 1. 背景と目的

大規模災害時においての避難所生活の長期化

⇒避難所での生活の質の向上

⇒「安心して健康に過ごせること」

⇒医療や保健の面で私達に取り組めることは?

避難者が普段使用している医薬品の名前が分からぬ場合、提供に時間がかかる

⇒使っている医薬品が本人にも周りの人にもわかりやすくなる仕組みが必要

○お薬手帳の活用

→常に持ち運ぶ習慣がない人が多い

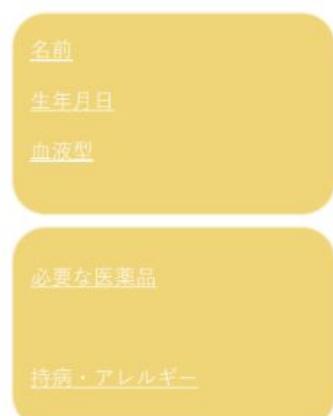
	回答者数	%
TOTAL	1095	100.0
ついつい持っていくのを忘れる	623	56.9
冊子なので持ち歩くとかさばる	435	39.7
紛失すると自分の服用情報を失ってしまうことになる	209	19.1
紙の書類なのでデータとしてPCなどで活用できない	136	12.4
複数の薬局にかかるとその分だけ手帳が増えてしまう	109	10.0
自分の個人情報になるので持ち歩きたくない	86	7.9
その他	19	1.7
特にない	194	17.7

(日本調剤調べ 2014年)

## 2. 具体的な解決方法

お薬手帳アプリの活用...災害時の電子機器 ×  
高齢化、扱うことが難しい場合

誰でも手軽に扱える紙媒体+持ち運びやすい重さ、大きさ  
⇒お薬手帳をカード化



名前、生年月日、血液型など基本情報、に加え、薬局でもらう処方された薬のシールを貼って使用する

○常に持ち歩ける工夫

⇒スマートフォンのカバーや財布に入れておけるサイズであること

## 3. 外部インタビューから

10月17日 仙台市役所健康福祉局 保健衛生部医療政策課訪問

実際は避難所に直接医薬品を届けることは無く、医薬品が必要になった場合は、避難所近くの医療機関を受診し、医師から直接処方を受けることが多い

⇒医薬品を届けるためにお薬手帳(お薬カード)が使われることはない

⇒持病があることを周りに伝えるためのお薬カードを目標に探究活動を進める

## 4. 結論

お薬手帳は持ち運びづらい

⇒より簡単に運ぶことができる新しいシステムの導入

⇒災害時の医薬品のスムーズな提供へ

○現時点のおくすりカードをより実用的にするための解決策

- ・情報更新の仕方
- ・個人情報の保護
- ・記載可能な情報の範囲、量について

☆お薬手帳の活用について考える

お薬カードを仕組みとして新たにつくるのは現実的ではない

⇒今使われているお薬手帳を持ち運んでもらう工夫をする

例: )お薬手帳の災害時における重要性を呼びかける内容のポスターを作成する、診察券と一緒に持ち運べる工夫(お薬手帳のカバーに診察券用のポケットをつけるなど)をするなど

○社会科研究発表会から

お薬手帳をマイナンバーカードに移行し、活用する

⇒マイナンバーカードを活用することで、持ち運びに便利

デメリット...マイナンバーカードは専用の機械で読み取る必要があるので、災害時電気が使えない状況下でも使用できる工夫が必要

- ・HP「お薬手帳に関する調査 日本調剤 2014年」
- ・HP「東日本大震災における診療活動の問題点と 新たな災害対策の提言」
- ・HP「知っておきたい、災害に役立つ常備薬の選び方」